

## 昭和事件史:1931~1948

### ジャーナリズム史Ⅱ資料

1

### 昭和6~11年:1931~36年

- 昭和6年9月18日 満州事変
- 昭和7年1月8日 桜田門天皇狙撃未遂事件
- 1月28日 上海事件
- 3月1日 満州国建国宣言
- 5月15日 五一五事件(犬養首相殺害)
- 昭和8年3月27日 国際連盟を脱退
- 昭和9年3月1日 溥儀が満州国皇帝となる。  
11月20日 青年将校によるクーデター未遂(11月事件)
- 昭和11年2月26日 二二六事件

2

### 昭和12~19年:1937~44年

- 昭和12年7月7日 蘆溝橋事件
- 12月13日 南京大虐殺
- 昭和13年4月1日 国家総動員法公布
- 昭和16年12月8日 日本軍真珠湾を奇襲
- 昭和17年5月7日 珊瑚海海戦で大敗
- 6月5日 ミッドウェー海戦で大敗
- 昭和18年4月18日 連合艦隊司令官山本五十六戦死
- 昭和19年7月7日 サイパン島の日本軍玉砕

3

### 昭和20~23年:1945~1948年

- 昭和20年3月17日 硫黄島の日本軍玉砕
- 4月1日 アメリカ軍沖縄に上陸
- 7月26日 ポツダム宣言
- 8月6日 広島原爆投下
- 8月9日 長崎原爆投下
- 8月10日 ポツダム宣言受諾を通告
- 8月15日 終戦:玉音放送
- 8月30日 マッカーサー、厚木に
- 昭和23年12月23日 A級戦犯東条英機ら処刑される

4

### 週刊読書人06年マスコミ回顧から-1

- 『戦争責任と追悼』(歴史と向き合う1、朝日新聞社)と読売新聞戦争責任検証委員会『検証 戦争責任(1)(2)』(中央公論新社)は貴重な歴史証言・資料を数多く含んでいる。
- 米誌『フォーチュン』に描かれた日本観などから考察した高島秀之『嫌われた日本—戦時ジャーナリズムの検証—』(創成社)も含めて、メディアが作り出すイメージが平時と戦時(有事)でどれほど違うのか、流布される社会とメッセージ性の怖さを教えてくれる。
- 福間良明『「反戦」のメディア史—戦後日本における世論と輿論の拮抗』(世界思想社)は映画と出版メディアに焦点をあて、戦後かもし出された「反戦」世論の実相を描いている。(06/12/22)

5

### 週刊読書人06年マスコミ回顧から-2

- 「大本営化するメディア」という副題をつけた浅野健一『戦争報道の犯罪』や佐藤卓己『メディア社会—現代を読み解く視点』(岩波新書)もメディア批判といった側面ばかりでなく、現代社会が抱える諸問題の例示として示唆に富む。
- さらに国際関係のなかでのメディア、情報というメッセージ性の多様さについては、橋本晃『国際紛争のメディア学』(青弓社)や江畑謙介『情報と戦争』(NTT出版)にも目を向けたい。(06/12/22)
- 佐藤卓己『八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学』(ちくま新書544、2005)

6